地域とともに未来をデザインするマガジン／岩手県立大学広報誌

# IPU MAG

Iwate Prefectural University Magazine 2012 Winter Vol. 54

［特集1］

## ICTの力で解決できる地域課題とは？

ソフトウェア情報学部生による地域の中でのICT利活用

［特集2］

## 学びを支援するメディアセンター改革

IPU-研究室へようこそ!

IPU TOPICS

地域をつくる希望の星たち

県大いいね!キャンパスナビ

岩手県立大学

特集1

# 県立大×地域プロジェクト…「ソフトウェア情報学部生による地域の中でのICT利活用」

## ICTの力で解決できる地域課題とは？

# 老舗企業と若い発想のコラボで、新たな事業展開をサポートする。

**ICT(※)を活用した様々な動きが加速する中、岩手県立大学ソフトウェア情報学部への注目が高まっています。開学時から研究・開発と地域貢献の両立に、積極的に取り組んできた本学部。地元企業や地域との連携によって始まっている、新たな取り組みをご紹介します。**

### 地域と共に課題に取り組み、学生の能力向上を目指す。

日々進展する情報化社会において、今やICTは日常に欠かせない情報通信技術。あらゆる経済活動や暮らしの中で、ICTを活用した様々な活動が行われています。

このような状況のもと、ソフトウェア情報学部は先端技術の研究に取り組む中で、地域をフィールドとした実践的な教育研究活動を展開。「地域の大学」としての特性を活かし、産業にとどまらず、医療・福祉・子育て・教育等の分野でも、自治体や民間企業・団体などと連携し、学生の学びと研究を兼ねながら、これらの活動を行っています。

具体的には、産直の業務支援システムや幼稚園を対象とした子育て支援システム、水産物流通システムなど、様々な分野で企業や地域の課題解決に参加。学びの場として地域の理解を得ながら、学生が自ら考え、実行する力を育てています。

### 企業戦略の核になる、ICTシステムを提案。

このような取り組みの中で今年6月から始まったのが、呉服店を営む株式会社高千代(花巻市)の『ホームページ(以下HP)』および『ネットレンタルシステム』の構築です。

当時、店舗販売に限界を感じ、新たなマーケット戦略としてネット事業への参画を考えていた高千代では、「花巻市産業支援アドバイザー制度」を利用して、地域でのICT活用に取り組むソフトウェア情報学部の堀川三好准教授(菅原研究室)に相談。企業と話し合いを重ねていく中で、学生視点を盛り込んだHPやネットレンタルシステムの構築に取り組むことが決まりました。

「HPもない所からのスタートでしたが、ゼロから作り上げるプロセスを学ぶことはいい勉強になると思ったんです」と、堀川准教授。老舗企業と柔軟な発想を持つ学生たちのコラボにより、新たなICT活用の挑戦が始まりました。

### 学生の柔軟な発想で、消費者の共感をつかむ。

大学では、菅原研究室の8人の学生や院生がチームを組んでHPの作成に着手。コンセプトや構成を考えるのは、20代前半のターゲットと同世代となる3人の女子学生たち。どんなデザインにするか、どうやって差別化を図るのか、何度も話し合いを重ねながら徐々に考えを形にしていきました。

「自分たちで社長に提案したんですが、好みや考え方の違いがあり、それを調整するのが難しかったですね」と、担当した伊藤舞さんは話します。

一方、HPと同時進行で行われたのが、ターゲットの共感をつかむための体験談コンテンツの制作。学生をモデルとした写真撮影や着付けの体験コメントなども、すべて学生たちの手によって行われました。「システム構築を担当したんですが、完成まで手がけられたのは貴重な経験。企業の方とやり取りする中で、社会に出る心構えも培われたと思います」と、学生リーダーの中村駿太さん。

事業の核となる基盤づくりをお手伝いすることで、地元企業の新たな活動を支援する。今後も地域を学びのフィールドとしながらも、お互いが高め合えるような地域貢献のかたちを目指していきます。

(※)ICT(アイシーティー)とは、コンピュータやネットワークを利用した情報通信技術。以前はITと呼んでいたが、現在はICTという呼称が一般的になっている。

### 学生による地域との連携・研究事例(菅原研究室)

**(1)産直における業務支援システム**(対象:産直センターあかさわ・2007年2月～)
産直運営団体が在庫管理、販売管理や栽培管理を行うことを支援する業務支援システムの構築。

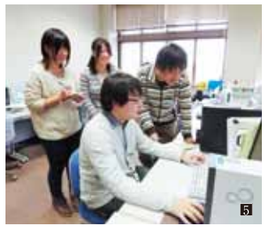
**(2)岩手県私立幼稚園ポータルサイト**(対象:岩手県私立幼稚園連合会・2009年4月～)
県内85園の私立幼稚園が共同利用するポータルサイトで、園の情報を保育者と保護者がWebやメールで共有。

**(3)公共牧野向け業務支援システム**(対象:滝沢村村営相ノ沢牧野・2009年10月～)
公共牧野の日誌管理システムや情報配信システム「相ノ沢牧野通信」の構築。

**(4)観光ポータルサイト**(対象:滝沢村観光協会・2013年3月運用開始予定)
着地型観光を対象とした観光ポータルサイトで、コンテンツ管理システムを用いた情報を配信。

**(5)高齢者相談業務支援システム**(対象:岩手県高齢者総合支援センター・2010年4月～)
高齢者からの相談事例を管理し、相談員同士で情報共有する業務支援システムの構築。

※上記にあげた菅原研究室以外でも学生による取り組みが多数行われています。



1 ホームページの制作に向けて、高千代の高橋宏史社長やスタッフと掲載商品などの打ち合わせをする学生たち。
2 『ホームページ・ネットレンタルシステム』の構築に関わる8人の学生たち。次回の提案に向けて熱い議論が続く。
3 システム開発だけでなく、着物姿の撮影もすべて学生が担当。いい表情を逃さず、バチリ!
4 モデル役の学生と記録する学生に分かれて、着物の着付けに密着。ここでの経験が体験談として掲載される。
5 ネットレンタルの構築に向けて、独自のシステムを開発。学生同士でアイディアを出し合い、詰めていく。
6 着物のモデルとなった女子学生。撮影は8月。炎天下の中での撮影はかなりキツい…。
7 学生たちが制作した高千代のホームページ画面。構成・デザインからシステムの構築までですべて学生たちが手がけた。

**[企業の方からのメッセージ]**

株式会社高千代代表取締役社長 高橋 宏史 氏

我が社は呉服店を営んでいるのですが、最大の顧客となるのが振袖をレンタルしていただく成人式を迎える女性です。また、着物を宣伝する際も店側の考え方に捕われがちで、なかなかお客様目線に立ったメッセージができないのもジレンマでした。今回、岩手県立大学さんと連携したのは、お客様に近い学生さんたちの柔軟な発想が取り入れられると思ったからです。一緒にホームページを作る作業は新鮮でしたし、刺激にもなりましたね。まだホームページの運用が始まったばかりなので、本当の勝負はこれから。今後も学生さんたちの生の声を聞かせてもらい、力になっていただければと思っています。

「オンラインショップへの参画を考えているので、学生さんたちにも協力してもらえれば」と話す、高橋社長。

きもの高千代ホームページ http://takachiyo.com/

# ICTの力で解決できる地域課題とは？

**今回のテーマに関するアイデアをtwitterで募集したところ、ユニークなものから実現の可能性のありそうなものまで多くのツイートをいただきました。その中から「ICTの力で地域を元気にする」アイデアをいくつかご紹介します。**

IPUMAG × twitter 岩手県立大学公式アカウント IPU_official

地方都市では交通手段が少なく、「ここへ行きたい！」と思っても思うように移動できない。一方で、自動車で移動する人は助手席が空いていてガソリン代も高くつく。双方をネットワークを利用してマッチングし、交通をシェアする取り組みはどうでしょうか。**@poly_mecon**

今やってるように商店街などで共通のハッシュタグを作り、思い思いのつぶやきをしてもらう。それだけでも情報の発信や店同士の協力関係を築くきっかけになるのでは。**@konitan_1115**

## 高齢者と病院をつなぐ何かが出来ればいいと思います。 @essy1323

近所の人と車の相乗りや物の貸し借りみたいなコミュニケーションが簡単にとれる仕組みがあると面白いと思います。**@_kuruten_**

買い物をするごとにお店に利用ポイントが貯まり、利用ポイントが一定値を超えると数日間何かサービスするようになる。同じ店を利用するほど全員が得する。また、利用者が少ない店ほどサービスが受けられる基準値が下がるとかすれば、色んな店に利用者が分散すると思うのだけど。**@dimention04**

ソーシャルゲームと連動した地域ボランティア人材の創出。例えば、高齢者の農業支援や商店街のイベント運営の手伝い等といった公益的な活動参加に対する報酬として、ソーシャルゲーム内で利用できるコンテンツを支給するなど、ゲームを通した市民参加の仕組みを作る！**@LeftyLine**

## 岩手独自の食品や特産を利用したローカル商品などをICTを利用して幅広く認知してもらえるような仕組みとかいいと思います！ @Expeg

## 街コンでの利用はどうでしょうか。 SNS使ったりして参加表明とか。お店の状況とか。 @misa_misa7

選挙に行く人が少ないので、スマホとか携帯で投票できたら投票率上がると思う。なんなら、スマホでできる国民投票とかで直接政治を動かせたら面白いと思う。**@okubo_yuki0518**

### Comment

地域課題の解決や地域資源の有効活用に、ICT は効果的なツールです。実際に地域に出て対象を理解し、柔軟な思考で最新の技術を取り入れたアイデアを提案してみましょう。その際、地域資源をうまく活かすことで特徴を出し、利用者の立場から見た提案をすることで継続性を考慮することが重要となります。

ソフトウェア情報学部准教授
堀川 三好

※誌面のスペース等の都合により、お寄せいただいたツイートのうち一部の掲載とさせていただいておりますのでご了承ください。

### ［特集に関するアイデア・ツイートの流れ］ twitter

**特集を読んだご意見・ご感想も募集していますので、公式アカウントにツイートください。**

1. 公式アカウントで「お題」を確認
2. twitterにアイデアをツイート
3. 投稿アイデアが次号誌面に掲載

※ツイートの際には、文末に「#ipumag（発行号数）」を付記してください。
「発行号数」は、本号では「54」、次号では「55」と変化しますので、「#ipumag54」「#ipumag55」のように表記してください。このことにより、様々なアイデア・ご意見を内容別にグループ化でき、誌面へ反映することができます。ご協力をお願い致します。
※皆様からのツイートは、本誌などで掲載させていただく予定です。ただし、誌面の都合により、全てを掲載することができない場合がありますのでご了承願います。

## 次回の「お題（テーマ）」はツイッター上で発表します。

**一般の皆様、学生・教職員の皆様からのツイートを広く募集しています。たくさんのアイデアお待ちしています！**



# 「IPU-研究室」へようこそ！

岩手県立大学は、地域のシンクタンク。学内では日々、様々な研究や教育活動が行われています。
こちらでは、大学全体を大きな研究室にみたて様々な研究教育活動をご紹介します。

◎研究室プロフィール
「もの（道具・設備）」「いえ（住宅）」「まち（建築・都市）」といった物的環境を生活の場として捉え、高齢者や障がい者の立場から環境のあり方を考える、狩野徹教授。東日本大震災では、グッドデザイン賞を受賞したコミュニティケア型仮設住宅のデザインに参加。また、盛岡短期大学部の教員らと「仮設住宅の改善および仮設住宅におけるまちづくり提案」の研究を進めている。

［研究メンバー］
狩野 徹（社会福祉学部・教授・中央）
高橋 緑（社会福祉学研究科博士後期課程・1年）
北川 みずき（社会福祉学部・3年）
金城 明華（社会福祉学部・4年）
高橋 美咲（社会福祉学部・3年）
中野 寛子（社会福祉学部・3年）
二瓶 さやか（社会福祉学研究科博士後期課程・3年）
※学生氏名は向かって左から順に記載。

今回の研究テーマ

## 被災地の福祉環境に関する研究 ［社会福祉学部 狩野 徹 研究室］

### コミュニティ型仮設住宅で暮らしの課題、絆づくりを調査。

1995年の阪神大震災では、孤立死の多発が問題化。これを受けて2004年の中越地震では、集落単位での移転や一定の範囲でのバリアフリー化と寒冷地仕様が提案されました。しかし東日本大震災では、数の確保とスピードが最優先課題。コミュニティへの配慮まで手が回らない状態でした。そんな中で岩手県立大学の狩野徹教授は、東京大学と連携し、コミュニティケア型の仮設住宅の設計に参加。遠野市穀町と釜石市平田地区に、向かい合わせの住棟配置やバリアフリー、住環境に配慮した仮設住宅の建設に協力しました。その一方で、盛岡短期大学部の本間義規准教授、内田信平准教授と共に調査を行い、仮設住宅の計画内容の検証や現状課題を整理。その後の生活とまちづくりへの提案を行うため、研究を進めています。

仮設住宅や集会所の使用状況を、住民にヒアリング。これらの調査データを元に、改善策の提示や新たな提案を行っている。

釜石市平田地区のコミュニティケア型仮設住宅を見学する学生たち。玄関が向かい合わせに設置され、自然に顔を合わせる設計になっている。

### 被災地の要介護者や障害者を見守り、課題と対策を明らかにする。

仮設住宅の調査の中で、狩野教授が注目しているのが、高齢者や障がい者の状況です。大船渡市と陸前高田市を中心に、住宅や集会所の使用状況を調査したところ、バリアフリー対応が不十分なために浴室が使えず、デイサービスに通うケースもあったといいます。他にも、仮設に引きこもって集会所にも顔を出さない、コミュニティに馴染めないなど、さまざまな課題が浮き彫りになりました。このような課題を踏まえ、狩野教授らは改善策を検討。これを県に提案し、現状を改善することで、少しでも快適な暮らしに近づけるよう努力を続けています。「この研究が新たな基準になれば、次の災害に生かすことができるはず」と、狩野教授。“仮設住宅地のまちづくり”への支援は、まだまだ続きます。

地域政策研究センター「震災復興研究」中間報告集 http://www.iwate-pu.ac.jp/contribution/houkokusyu.html

特集2

# 県立大学のイマを伝える！ vol.6 学びを支援するメディアセンター改革

目的の書籍まで学生を案内するライブラリーアテンダント（以下LA）。この他に学生目線での選書を行うなど、26人の学生ボランティアが活動を始めている。

学びを支援するメディアセンター改革

## 学生目線の図書館改革で学習支援の新たな環境づくりを。

図書を利用するスペースから、学生が主体的に学習できるスペースへ。
いま、大学図書館のあり方を根本から変える動きが全国的に進んでいます。
岩手県立大学でも今年度から、3ヶ年によるメディアセンター（図書館）の整備を開始。より使いやすく、
より快適な学びの場へと生まれ変わるために、学生目線での新たな取り組みが始まっています。

LAがおすすめする本の企画展。図書館案内だけでなく、LAは様々な企画にも携わる。

4階に20席設置された個別学習スペース。持ち込みPCやノートPCの利用もできる。

データベースの中から資料を探せる検索コーナー。使用時にはLAのサポートも受けられる。

3階中央に設置された多目的スペース。PCの使用や雑誌の閲覧など様々な目的に使える。

### 学生たちの学びを支援する図書館のあり方とは

開放的な吹き抜けが広がるドーム型のメディアセンター（図書館）は、岩手県立大学を象徴する個性的な知のスペース。しかし、平成17年度をピークに学生の図書館利用は年々減少。改めて機能を見直し、使いやすく親しみやすい図書館へと転換を図る時期に来ていました。

一方、インターネットの普及や学術資料の電子化などにより、学生の学習スタイルが変化。それにともない、さまざまな情報メディアを活用して自ら考える学習に移行できるような環境づくりが求められています。

このような状況を受け、図書館がワークショップ等を開催して学生と教員のニーズを調査した結果、いくつかの問題点が明らかになりました。例えば、レポート作成に利用できるパソコンが図書館にはないこと、授業の空き時間を有効にすごせる学習スペースが不足していることに加え、学習が目的でなければ利用できないということなどが指摘されました。

本来、大学図書館は「学びの場」であるとともに、「学習を支援する場」。しかし、学生が気軽に利用できる環境づくりや運営が行き届かず、利用者数の伸び悩みにつながっていたのも事実。そこで図書館では、「学生のための図書館改革」に着手。学習支援を目標とした、学生が意欲的に自学自習に取り組むことのできる環境整備が始まりました。

### ラーニング・コモンズ機能の導入で学習支援の環境を整備。

図書館改革にあたって、まず取り組んだのが「ラーニング・コモンズ」機能の導入。これは、図書館が所蔵している資料とインターネット情報とを活用しながら学習できる環境整備に加え、グループで議論をしたり、プレゼンテーションの練習をするなど、目的に合った多様な学習活動ができる場を提供するものです。

今年度からの具体的な実施策として、(1)電子情報と書籍を総合的に利用できる環境づくりと、人的支援体制の整備、(2)個人学習空間とグループ学習のための場の整備、(3)くつろぎ空間や交流空間の整備などをスタート。学生一人ひとりが自分に合ったスタイルで学ぶことのできる場を見つけられるように、整備が進められています。

今回の改革のポイントは、人的支援体制の整備です。学生が書籍や資料について気軽に相談できる環境をつくるために、情報検索や機器操作等の支援を学生が自ら行う「ライブラリー・アテンダント」を採用。図書館の案内をはじめ、おすすめ図書などの企画展の開催や学生目線での選書も行っていきます。

このような取り組みを継続していくことによって、課外での自学自習を促進するとともに、図書館が学生の交流の場となっていくことを目指します。さらには、学生一人ひとりの情報活用能力の向上を実現し、社会人基礎力の高い人材を育成していきたいと考えています。

### ＜学習支援のための環境整備＞

本学では、第二期中期目標の基本姿勢において「学生を主人公にした教育」への取り組みを掲げ、「きめ細かい学習支援の環境整備」を設定。その一環として、次のような図書館改革に取り組んでいます。

**■ 図書館における課題**

1) 電子情報と印刷資料を総合的に活用できる環境の整備
2) 教室以外の学びの場の整備
（個人とグループの学習スペースのすみ分け）
3) グループで対話しながら学習できる空間の整備
（ホワイトボードやプロジェクター等の活用）
4) (1)～(3)を有効的に活用するための人的支援の整備
5) 学生が気軽に利用できる環境づくり

↓

**■ 具体的な取り組み**

A) IT環境の充実
●**貸出用ノートパソコンの整備** 等
B) 図書館エリアの整備
●静的空間と動的空間のすみ分け
●**多目的空間の整備**（3階中央スペース）
●**個別学習机の増設**（4階空きスペース）
C) 多様な学びに対応できる機器の整備
D) 人的支援の整備
●**「ライブラリー・アテンダント」**の導入
（図書館活性化の学生ボランティア）
E) 教員、授業、他部署との連携等

**［ライブラリー・アテンダントから］**

一井 七海 さん（総合政策学部2年）

昔から本が好きでしたし、図書館の雰囲気も好きだったので、すぐにライブラリー・アテンダントに申し込みました。2回の研修を通して新たに学んだことも多く、改めて図書館の役割の大切さを実感しています。活動をはじめたばかりで未熟な点もありますが、多くの学生に図書館を好きになってもらえるように頑張りたいです。

**［図書館改革に寄せて］**

齋藤 俊明 教授（メディアセンター長）

図書館改革は、学生が自ら考える力をつけるための「場」を充実させることが目的です。所蔵している文献資料を手に取り、読み解き、活かす力が身につけば、授業や卒業研究だけでなく、社会人基礎力の向上にも役立ちます。今後は、県民の皆さまにも利用していただき、学生・教員・県民が共に学び、考えるための「場」としての図書館を目指していきたいと考えています。

# IPU TOPICS

## 岩手県立大学のニュースやイベントなど、旬のトピックスをご紹介します。

### 情報を発信し、子どもたちの支援へとつなげる

被災地の子どもたちや若者の姿、防災教育の"いま"を発信するWEBサイト「ninaL」（ニナル）が、今年の6月にオープン。「ninaL」は本学やNPO法人さくらネット等が協同し、運営を行っています。ほかのWEBサイトとは少し異なり、動画をメインとした情報発信を行っているのが特徴的。そして、情報発信することで、遠隔地や学生同士のつながりといった今後の被災地支援、地域づくり等として広がることが期待されます。（出版委員会A・Y）

### 岩手発のイノベーションの拠点が1周年を迎えました

9月28日に「いわてものづくり・ソフトウェア融合テクノロジーセンター（i-MOS）」の開所１周年記念講演会を行いました。約200名が来場し、ＭＯＴ（技術経営）の役割や自動車産業の課題・展望、自動車技術の研究などについての講演や、公募研究等の成果及びi-MOSのパネル展示などを通じて、岩手発のイノベーションの拠点としての同センターの活動への理解を深めていただく機会となりました。

### 本への愛を競え！ビブリオバトル決戦

若者の活字離れが指摘される中、ゲーム感覚を取り入れた書評イベント「ビブリオバトル」が注目されています。9月24日に本学アイーナキャンパスで、県内初のビブリオバトルが開かれました。参加者は3組に分かれ、各々に持ち寄ったお気に入りの本について5分間熱く語り合いました。優勝した総合政策学部2年の砂田量子さんは「ビブリオバトル首都決戦2012」へと駒を進めました。（出版委員会T・Y）

※イニシャルを明示している記事は、出版委員会の学生が取材・執筆したものです。

### ネパール元首相が来学、本学の学生たちに特別講義

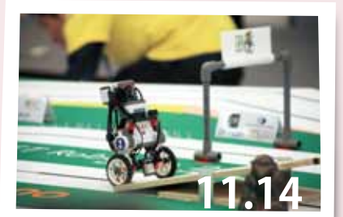
10月4日、ネパール元首相マダブ・クマル・ネパール氏をお招きし、「ネパールと日本の友好関係の促進」等をテーマとした「2012　岩手県立大学国際交流特別講義」が、本学の学生を対象として行われました。当日は約100名の学生と教職員が聴講。日本とネパールのこれまでの交流を振り返り、両国の協力関係への願いについてお話いただいたあと、活発な意見交換が繰り広げられました。

### 学生によるワークショップ、発表が行われました

公立大学学長会議の初日11月8日に全国の公立大学の学生が「学生による被災地支援と地域防災活動」についてワークショップを、さらにその結果について特別シンポジウムで発表を行いました。本学からは、学生ボランティアセンター所属の小原裕也さん、山本亜胡さんが参加。シンポジウムでは、ワークショップの結果について2人ともそれぞれ堂々と発表。本学学生ボランティアセンターについての質問にも答えていました。

### チーム「monolith」ETロボコン全国大会で総合８位に入賞

今年も行われたETロボットコンテストに、ソフトウェア情報学部の猪股研究室から2チームが出場しました。大会経験者で構成されたチーム「monolith」は、東北大会で4位に入賞。11月14日に横浜で行われたチャンピオンシップにも進出しました。走行競技部門では、底面のセンサーでコースを認識させて走らせるため、会場の照明によって細かい調整が必要になります。他チームが続々とリタイアしていく中、無事完走させ、総合８位の好成績を収めました。（出版委員会M・T）




### 学生の課外活動について

部活動・サークル活動における主な大会等の成績（平成24年12月現在）

●弓道部
24.10.6 国民体育大会 弓道成年女子 遠的 5位入賞（岩手代表）
（※成年女子団体の岩手県代表の一人として、菊池ひかりが出場）

●ラグビー部※盛岡大学と合同チーム
24.5.20 東北地区大学ラグビー七人制大会 優勝

●ダブルダッチサークルROPE A DOPE
24.9.9 Double Dutch Delight North（北海道・東北）大会 二部門第1位

●少林寺拳法部
24.12.2 少林寺拳法全国大会inかながわ 一般男女有段の部 第６位 大塚 学

●混声合唱団Polish
24.9.30 全日本合唱コンクール東北支部大会　大学部門 銀賞（第3位）受賞

●将棋部
24.6.23,24 東北学生将棋連盟新人・十傑戦 東北地区大会 新人戦優勝 小山怜央

### IPU Festa 2012が開催 今年のテーマは"維新"

10月27日・28日に本学滝沢・宮古の両キャンパスにて大学祭が開催されました。滝沢キャンパスのメインステージや講堂では実行委員会によるイベントや学生によるバンドライブが開かれ、県大モールではサークルや研究室など様々な団体が模擬店を出展。各学部棟の研究発表には体験コーナーもあり、県大を身近に感じてもらえるようなイベントになりました。（出版委員会T・Y）

### 宮古短大大学祭「蒼翔祭」開催 今年のテーマは"粋（いき）"

今年のテーマ"粋"には震災から一年半が経ち、町が以前の形を取り戻しつつある中で、事をやりとげようとする積極的な気持ち、心に溢れる元気という『意気』から転じた意味語「粋」に、「息＝生き＝粋、息をしている人は生きている人、生き生きしている人が粋」という意味を含めました。当日はたくさんの方々にご来場いただき、特にゼミの模擬店やビンゴ大会・スタンプラリー等の参加型イベントは大盛況でした。

### 学生の国際交流が活発に行われました

9月21日から23日にかけて、アメリカのオハイオ大学学生と岩手県立大学学生が共同で、「交流事業」及び「宮古市内・大槌町内での復興支援ボランティア活動」を行ないました。また、10月31日には、韓国大学生訪日研修団の皆さんが外務省事業「キズナ強化プロジェクト」による被災地支援プログラムの一部として来訪。キャンパスツアー、講義、学生ボラセン活動発表、グループワークなどで交流を深めました。

### 田老地区体育大会へ、看護学部学生会が参加

10月7日、第66回田老地区体育大会に本学看護学部学生会有志が参加しました。看護学部では、学生の有志団体カッキー's が被災地仮設住宅で支援活動を続けていますが、今回は学生会が歴史ある宮古市田老地区運動会の運営を支援。当日は18名が参加し、うち8名が当日の運動会の役員としての運営を補助。競技にも参加したほか、炊き出しとして焼きそばや豚汁、ジェラートなどを参加者へ振舞いました。

地域貢献を使命の一つに掲げる
岩手県立大学。
学習や研究に励みながら
地域に役立つ力を磨く在学生と、
仕事を通じて
地域づくりに関わる卒業生、
それぞれの熱い思いを
紹介します。

# どんなことでも思いがあれば変えられる。多くの出会いから大切なことを学びました。

## 在学生

陸前高田市に生まれた私は、小さな頃から地域の輪の中で育てられました。高校時代から「高田のために何かしたい」という思いがあって、県内での進学を希望。総合政策学部のある岩手県立大学に進みました。大学では、行政経営コースで経済学や経営学を勉強。地方財政に対する住民参加の関わりを中心に研究しています。

その一方で取り組んでいるのが、地域プロジェクトチームLINK@（リンクアット）という学生団体の活動です。これは、地域と学生のつながりから、地域活性化を模索するもの。私が代表を務めているのですが、学生目線から滝沢村の企業を紹介するパンフレットを作ったり、地域のイベントに参加するなど、積極的に交流を広げています。これらの活動を通して、住民や企業の方々から学んだのが、「思いを持つこと」の大切さ。何のためにやるのか、そのためにどうすべきなのかを本気で考え、全力で取り組むことの大切さです。

今年9月に参加した陸前高田市の八木澤商店のインターンシップでも、どれほどの思いを持って復興に取り組めるのかを問われました。思いを持つことは、自分と向き合うこと。自分は何をしたいのか…、根本に立ち返って、自分を追い詰めた2週間でした。

これから就職活動を始めますが、まだどんな仕事を目指すのかはわかりません。ですが、大学時代の出会いを糧にしながら、いずれは故郷の復興に関わっていければと思っています。

**千田（ちだ） 希（のぞみ）**［総合政策学部3年］

1991年陸前高田市生まれ。県立大船渡高校卒業。高校時代は合唱部に所属し、アルトを担当。大学入学と同時に参加したLINK@では代表を務め、現在、企業に対する次の提案をプランニング中。趣味は映画鑑賞。映画を観た後、スターバックスでお茶をし、図書館に立ち寄るルートがお気に入りとか。

LINK@ツイッターページ　https://twitter.com/Ipt_LINK

# 地域をつくる希望の星たち

患者さんの喜ぶ姿を見るのが一番うれしい、地域の人々の役に立つことが私の夢。

## 卒業生

自分がやりたいことは何だろう…。高校卒業後の進路について、私はずっと悩んでいました。そんな時に先生から、会計科で学んだことが生かせる宮古短期大学部に進学しては？とアドバイスを受け、経営情報学科の経営会計分野へ。大学では、簿記・会計や経営学、経済学などを幅広く学んだほか、パソコンを使っての文書作成など、実践で役立つ力を身につけました。

授業以外でも日商簿記検定を目指すなど、自主的に資格を取得。将来は資格を生かせる仕事に就きたいなと思っていた矢先に、さかもと眼科クリニックの求人募集に出会ったんです。接客の経験がなかったので不安もありましたが、実際にスタッフが生き生きと働く姿を見て、この病院を受けようと決意しました。

現在は、薬品在庫の管理や患者さんの誘導、診療の説明などを担当。本来、私は事務職なのですが、うちのスタッフは誰もが様々な仕事を兼務するオールラウンドプレイヤー。特に薬品関係の仕事などは覚えることが多くて大変ですが、ミスを出さないように、一つひとつの業務をしっかり確認するように心がけています。

今年でようやく2年目。最初は苦手だった接客も、今では楽しく感じられるように進歩しました。患者さんとお話したり、治って喜んでいらっしゃる姿を見るのが一番うれしい瞬間です。まだまだ未熟ではありますが、地域の人々のために、少しでも役に立てる仕事ができたらと思っています。

**髙坂（こうさか） 愛美（めぐみ）**［さかもと眼科クリニック会計事務］

1990年宮古市生まれ。県立宮古商業高校、宮古短期大学部経営情報学科卒業。現在は宮古市内のさかもと眼科クリニックに勤務し、事務を担当。小学生の頃から続けている柔道は2段の腕前で、中学2年生の時は県で優勝するほどの実力者。ピアノも得意で、芸術にも武道にも秀でた凄腕の持ち主である。

県大いいね!

キャンパス・アテンダントがご案内します!

# キャンパスナビ

学生目線で大学の魅力を楽しく発信するキャンパス・アテンダント。現在、46名の学生たちが活躍中です。そんな彼らが、大学の知られざる魅力を紹介するのがこのコーナー。毎回ユニークなネタが飛び出しますので、ご期待ください!

## Vol.2／県大生のランチ事情を突撃リポート!

学生の食事といえば「安さ」と「ボリューム」が真っ先に思い浮かびますが、イマドキはどんな食生活を送っているのでしょう?今回は岩手県立大学・滝沢キャンパスのランチ事情を公開!学生たちの昼時をのぞいてみましょう。

### 学食

とっても気さくなおばちゃんたちも学食の名物!

安くて美味しい!と人気の学食は、学生のオアシス。定番のカレーやラーメンを始め、丼や定食、旬を取り入れた季節メニューなど、バラエティ豊富。そして忘れちゃいけないのが、一週間ごとに味が変わるソフトクリーム。サッカーで日本が勝つと一巻きプラスする、楽しいサービスもあるとか。

いろんな味が楽しめる週替りソフト。

今日はカボチャソフト!

コロッケ・トンカツ・ハンバーグがのっかった名物メガトリオカレー!およそ1400Kcalの大盛りカレーは迫力満点!

**学食「勝手に」人気メニュー**

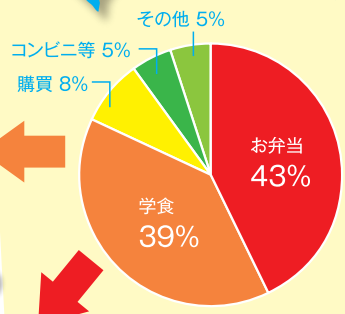
☆週替わりソフト
☆定食
☆豚バラ揚げ煮丼
☆カレーライス
☆辛味噌ラーメン

※CAの独断と偏見で決めたものですので予めご了承ください。

ボクらのランチ環境って、結構充実してるかも。いろいろ選べるのがいいよね!

まずは学生にアンケート!ランチの実態はいかに…?

### Q) 昼食はどうしていますか?




CAの学生たちにアンケートを取ったところ、お弁当派が学食派にわずかに差をつけて1位。お弁当、学食、購買が、学生人気のトップスリーだ!
[回答数:CA23人]

なるほど〜、意外に外食派は少ないんだ!

### お弁当

お弁当は節約の味方です!

ある日のCA特製弁当を拝見!

実家暮らし、一人暮らしに関わらず、お弁当を持参する理由は、お小遣いの「節約」が断然トップ。自分で手づくりする学生は、栄養バランスを考えて野菜を入れるように心がけているのだとか。母親が作ってくれるのでラク!という声もありました。

### 購買

人気の「あつこ弁当」は、器もリサイクルする環境にやさしいエコランチ。11時を過ぎると、アツアツのお弁当がずらりと並びます!

大学生協の購買店舗では、手軽に食べられるパンやカップラーメンの他に、オリジナルの「あつこ弁当」が大人気。キーマカレー丼、ささみチーズカツ丼など、バラエティ豊富でボリューム満点な丼が10種類以上。サイズも大・小選べて女子学生にも好評です。

## 編集後記

前号(53号)の特集1の中で川前自治会の川村会長のメッセージで触れられていた「ポリスボックス」が「滝沢駅前防犯拠点」として完成し12月8日に式典が行われました。地域の方々と本学の学生や教員が知恵と力を出し合って地域防犯に取り組み、より住みよい街づくりを目指す新しいモデルといえます。式典でも本学の学生が司会を務めたり、準備の雪かきに精を出していたり、地域と一緒になって動いていることを改めて実感し頼もしく感じました。(企画室T・S)

今回のトピックスの中にある、「ninal」というWEBサイトの名前には、震災によって希望や夢を失った子供たちの夢を叶える、内面から元気になる、といった支援を行っていくことへの思いが込められているそうです。そのような支援を行うにも、まず被災地の子供たちの〝いま〟を知ることが大切だと感じます。「ninal」を通して被災地を知ることが、支援活動や地域を越えた支援の輪の広がりのきっかけになってほしいと思います。(出版委員会A・Y)

今回、初取材で記事を書きました。初めての体験でしたが、読んでくれた方にその場の雰囲気が少しでも伝わればいいなと思っています。さて、そろそろ今年も受験シーズンの本番が迫ってきましたね。昨年の我が身を振り返ると、他人事とは思えないぐらい後輩たちのことが心配です。心配で心配で日に10個しか蜜柑が食べられません…。まあ、冗談は置いておいて、来年も元気な後輩たちが研究室に入ってくることを先輩方は望んでいると思います。頑張れ!受験生。(出版委員会M・T)


岩手県立大学 Iwate Prefectural University 企画室 協力:岩手県立大学出版委員会


〒020-0193 岩手県岩手郡滝沢村滝沢字巣子152-52
TEL.019-694-2000 FAX.019-694-2001
[URL]http://www.iwate-pu.ac.jp/
[e-mail]management@ml.iwate-pu.ac.jp


発行:2012年12月31日


表紙や誌面に使用している六角形の[ハニカム構造]は、強固な形といわれるもの。岩手県立大学と地域などとの「結びつき・つながり」の強さを表しています。


Copyright © 2012 IPU All Right Reserved.